

# 東京の文化財



浜離宮庭園の御茶屋 写真提供:公益財団法人東京都公園協会

## 目次

東京文化財ウィーク2018が始まります！ .....	1~3
大名庭園と御茶屋 .....	4~5
「文化財を活かす」(世田谷区・日野市) .....	6~7
旧前田家本邸洋館のリニューアルオープンに向けて .....	8

## 東京文化財ウィーク2018が始まります！

### 東京文化財ウィークとは？

東京都教育庁では、毎年10月、11月に、都内の文化財により親しんでいただくことを目的として「東京文化財ウィーク」を開催しています。

この期間には都内各地で集中的に文化イベントが開催され、特に10月27日(土)から11月4日(日)までの期間には、通常公開していない文化財の多くも公開されます。今年の秋は、東京の文化や歴史を感じてみませんか。

## 都内の文化財を一斉公開！



＜紙本著色西王母図＞（右隻）

前漢の武帝の宮中へ長寿の仙桃をもつ仙女（西王母）が降り立ったという故事をもとにした江戸時代中期の屏風。八王子市の金剛院に秘蔵されており、10月27日から11月4日までの間に特別公開します。



＜六義園 山陰橋＞

文京区にある六義園は、和歌に詠まれた景色・名所を再現して作られた大名庭園です。一年中四季折々の風景を楽しむことができます。



＜旧醸造試験所第一工場＞

北区にある重要文化財の赤煉瓦工場は、10月30日から11月2日までの間に特別公開します。

各文化財の解説や現地の情報等、より詳しくは「東京文化財ウィーク2018ガイドブック通年公開編」をご覧ください。

各文化財所在地では、  
文化財の解説カード  
を無料で配布します。



## 東京文化財ウィーク2018 ガイドブックの紹介

文化財ウィークのガイドブックでは、公開事業に参加する文化財の解説や現地へのアクセスなどの情報を網羅しています。また、関連する文化イベント（企画事業）の情報も全て掲載しています。

ガイドブックは都庁の観光案内所や区市町村の文化財担当窓口、都立図書館、博物館などで無料で手に入れることができます。

文化財ウィークのことならこれを見れば一目瞭然！  
ぜひガイドブック片手に都内を巡ってみましょう。



# 「明治・東京150年」！いろいろな文化イベントを楽しもう！

10月・11月には、文化財めぐり、特別展、現地解説、実演、講座・講演といった文化イベントが都内各地で開催されます。

今年は明治150年に当たり、「江戸」が「東京」に変わって150年の節目の年でもあります。

いろいろな文化イベントに参加して、今一度、東京の歩みを振り返ってみましょう。

**明治150年記念講演**  
**「ヴィクトリアン・タイル—旧宣教師館を彩る装飾」**  
 日時:平成30年11月11日(日) 場所:豊島区旧雑司ヶ谷宣教師館



## 「秋の文化財めぐり 明治150年 志士ゆかりの地を巡る」

- ①東京に残された西郷どんの足跡を巡る
- ②吉田松陰の時代

日時:①平成30年10月27日(土) 8:30~16:30(予定)  
 ②平成30年11月 3日(土・祝) 8:45~16:00(予定)  
 場所:中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)



## 「東京150年記念事業「小金井の絵図」

日時:平成30年11月1日(木)から平成30年12月24日(月)まで  
 9:00~16:30  
 場所:小金井市文化財センター

各イベントについて、具体的な内容や会場へのアクセス等、より詳しくは、「東京文化財ウィーク2018ガイドブック 特別公開・企画事業編」をご覧ください。

## 〇見学に当たってのお願い！

文化財は私たちの大切な宝物であり、後世に受け継いでいくべき財産です。文化財を見学するときはマナーを守ってご鑑賞ください。

撮影禁止の場所もありますので、現地の指示や、ガイドブックに従ってください(ガイドブックには現地の施設情報も載っています)。



## Tokyo Heritage Week 2018

### Period

October and November (especially between October 27 (Sat) and November 4 (Sun))

### Area

Cultural spots all over Tokyo

### Events

Heritage guide tours, Performances, Special exhibitions, and more Heritage-related events

### Further information

<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/week.html>

# 大名庭園と御茶屋

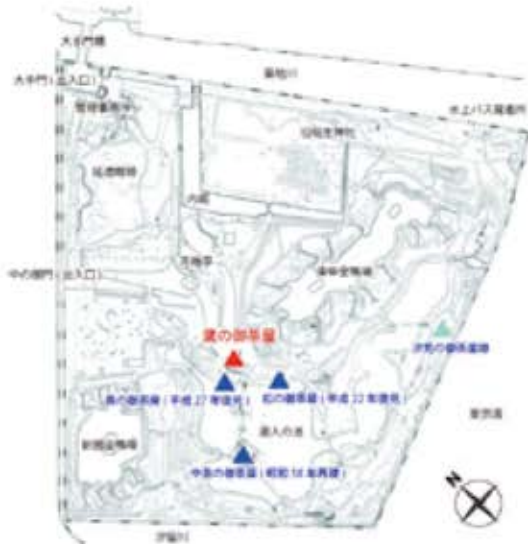
## 1 大名庭園と御茶屋

旧浜離宮庭園は、江戸時代には、「浜御殿」と呼ばれ、将軍家の庭として利用されてきました。この庭園は、回遊式庭園と呼ばれる様式で、池の周りに樹木や築山のほか、様々な建物が配置され、庭を巡りながら、それらが織り成す景色を楽しむ庭園です。「御茶屋」は、庭園の景色を構成するだけでなく、園遊の際の食事や休憩、賓客をもてなす場として建てられた建物です。

歴代の将軍たちは「御茶屋」で賓客と共に景色を楽しみながら食事をしたり詩歌を詠んだり、調度品を鑑賞するなどして過ごすほか、鷹狩りの際の休憩所として利用していました。

11代将軍徳川家斉の時代（在位1787年～1837年）には、「潮入の池」の畔に「鷹の御茶屋」や「松の御茶屋」、「燕の御茶屋」が建てられるなど、歴史上、庭園が盛んに利用された時代でした。その後、明治時代の旧浜離宮庭園は、政府・宮内省が管理するようになり外国要人の接客や外交の場として利用されるようになったため、各御茶屋も西洋化に伴う整備がされていきました。その後、震災や戦災により「御茶屋」は焼失してしまいました。

東京都建設局は、旧浜離宮庭園の修復などの取組を続けており、これまでに池の護岸などの修復のほか、焼失したままになっていた「松の御茶屋」と「燕の御茶屋」の復元を行ってきましたが、このたび、3棟目の復元となる「鷹の御茶屋」の復元が完了しました。



旧浜離宮庭園における御茶屋の配置図

## 2 「鷹の御茶屋」の概要

鷹の御茶屋は、幕末から明治・大正にかけて撮影された外観・室内の古写真、江戸時代の様子が書かれた絵図や文献資料、明治期以降の修理記録など、数多くの史資料が残されていました。これらの史資料から、鷹の御茶屋は、江戸時代に、将軍の鷹狩りの待合い・休憩所として整備された建

物であることが分かりました。

また、江戸時代の文献資料には、茅葺の建物で、室内には地炉（土間に造った炉）があり、芋や栗を焼いていたことや、農具を飾っていた様子などが書かれ、将軍が鷹狩りの休憩の際に、農家の佇まいを楽しんでいたことがうかがえます。



「鷹の御茶屋」の古写真（明治から大正頃）（宮内庁宮内公文書館所蔵）



鷹の御茶屋の絵図資料（明治2年 浜殿園池全図 明治2年 宮内庁宮内公文書館所蔵）

## 3 発掘調査

鷹の御茶屋は、戦災で焼失しましたが、建物の基礎となる礎石などはそのままの形で残っていました。平成27年に発掘調査を行って、遺構の状況を調べた結果、地中から建設当初の江戸時代の礎石が確認できたほか、明治以降に改修された地炉やかまどの遺構を確認することができました。これらの遺構は、絵図資料ともよく一致していたため、建物の規模や柱の位置、平寸法などを特定することができました。



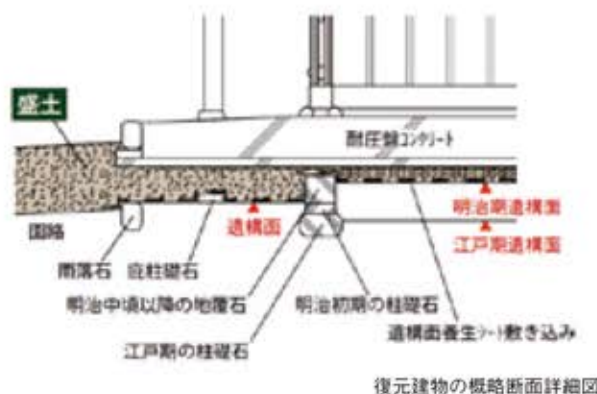
鷹の御茶屋跡の発掘調査状況

## 4 復元の方針

鷹の御茶屋は、古写真や絵図等の史資料や、発掘調査により確認できた江戸時代末期の鷹狩りの待合い・休憩所として、できるだけ忠実に復元することとしました。

また、残存していた礎石や地炉などの遺構については、歴史的な価値を考え、そのまま保存する

こととしました。このため、復元に際しては、遺構の上に盛り土をして、遺構を保護し、その上に、復元建物の基礎となる耐圧盤を敷設してから建物を建設することとしました。なお、盛り土によって建物の復元高さが変わるため、景観への影響について確認するほか、既存園路との擦り付けや園路勾配や植栽について調整を行いました。



復元建物の概略断面詳細図

## 5 復元工事

鷹の御茶屋の復元工事は、平成28年10月から平成30年3月までの約1年半にわたり行われました。復元に当たっては、遺構保護や構造補強に加え、鷹の御茶屋の特徴的な意匠や技法を再現しながら施工を進めました。

鷹の御茶屋は、その用途から、狩りに使う鷹を休ませるための鷹部屋が付属しているのが特徴です。また、室内は、鷹狩りの装束のまま出入りをしていただと考えられることから、土間叩きとしていることも、他の松の御茶屋や燕の御茶屋とは異なります。

また、室内には、将軍が、休憩や暖を取る際に腰を掛けるための上段が設けられていたほか、竹格子の明かり取り窓や、棚が設けられていたことも古写真や図面資料から確認できました。また、天井は、上段部は網代天井が、それ以外の部分の天井は竿縁天井が張られていました。

屋根については、茅葺屋根であることが特徴で、幕末や明治・大正期の古写真から、茅葺の厚さは薄く、御茶屋として軽快な見た目の屋根に仕上げられていました。これらの史資料を基に、茅葺職人の手によって茅葺屋根を復元しました。



復元した鷹の御茶屋の内部  
(右側が上段と明かり取り窓)

復元した鷹部屋



茅葺の仕上げ作業の様子

復元した鷹の御茶屋外観



鷹の御茶屋 復元設計図

## 6 おわりに

今回の鷹の御茶屋の復元によって、これまでに復元した松の御茶屋、燕の御茶屋と合わせて潮入の池の畔に立つ3棟の御茶屋の復元が完了しました。今後は、潮入の池周りの景観を整えるため、植栽等の整備を進める予定です。

旧浜離宮庭園は、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を控え、世界からの観光客をもてなす場所として、一層の活用が期待されており、今後も庭園の持つ文化財としての価値を保全するとともに、その魅力を更に高め、多くの来園者に伝えていけるよう、引き続き、修復や復元事業に取り組んでいきます。



復元した3棟の御茶屋(潮入の池の中島付近から望む)

### 旧浜離宮庭園(浜離宮恩賜庭園)

所在地: 東京都中央区浜離宮庭園1-1

アクセス: <大手門口> 都営地下鉄大江戸線「築地市場」・「汐留」・ゆりかもめ「汐留」下車 徒歩7分 JR・東京メトロ銀座線・都営地下鉄浅草線「新橋」下車 徒歩12分

<中の御門口> 都営地下鉄大江戸線「汐留」下車 徒歩5分 JR「浜松町」下車 徒歩15分開園時間: 午前9時～午後5時(入園は午後4時30分まで)

休園日: 年末・年始(12月29日から翌年1月1日まで)

H P: <http://teien.tokyo-park.or.jp/contents/index028.html>

問合せ: 浜離宮恩賜庭園サービスセンター

☎ 03-3541-0200



「旧山田家住宅」外観 撮影：清水襄

## 成城・旧山田家住宅の 保存と活用

### 【成城学園と旧山田家住宅】

江戸・東京の近郊農村だった世田谷が住宅地に変化したのは、大正から昭和にかけてのことで、あちこちで分譲住宅地ができました。その中でも学校が主導する特徴のある街づくりがなされたのが成城です。



「旧山田家住宅」内観 撮影：清水襄

成城の街は、大正14年(1925)4月、東京府北多摩郡砧村大字喜多見に成城学園が移転したのが始まりです。その頃この地は、集落のはずれにある雑木林で、学園は約10万坪の土地を地主より買い求めました。学園用地以外は住宅用地として分譲し、学園自らの手で住宅開発事業を進めました。成城学園の住宅開発は、緑豊かな自然環境の中で学習するという、理想の学園都市をつくる目的で行われました。騒音や悪臭など近隣公害をなくす様々な取り決めがなされ、住民同士が互いに快適な住環境づくりを目指していました。

「旧山田家住宅」は、学園の住宅分譲が一段落した昭和12年(1937)頃に、分譲地に隣接して建築された洋館です。建築時のオーナーはアメリカでの生活経験から、アメリカの住宅に影響を受け設計したと伝えられています。外観は折り重なるように並んだ壁面に上げ下げ窓をリズムカルに配置して、軒の水平ラインを強調したデザイン



数種類ある床の寄木張り  
撮影：清水襄

になっています。内部は機能ごとに細かく部屋が分けられ、寄木張りの床を多用したデザインなどに工夫が凝らされています。保存状態が良く、学園都市として良好な住環境を目指していた成城学園住宅地の雰囲気を残す建造物として価値が高いため、平成28年(2016)2月には区指定有形文化財(建造物)に指定されました。

### 【旧山田家住宅と成城みつ池緑地】

「旧山田家住宅」の西側は国分寺崖線の斜面地で、崖下には湧水があります。ここは神明の森みつ池特別保護区として保護され、ホテルなどが生息する環境が守られています。「旧山田家住宅」は国分寺崖線の自然に触れることができる公園として整備され、普段立ち入ることができない保護区を見下ろすことができます。建物は多くの方に利用していただけるようユニバーサルデザインを導入したほか、耐震補強工事も行いました。

成城の街歩きを楽しむ方や近所の方が気軽に立ち寄っていただき、文化財に親しんでいただける施設となっています。



神明の森みつ池特別保護区  
写真提供：(一財)世田谷トラストまちづくり



筋違いや構造用合板を使っての耐震補強

### 【地域の歴史や文化の継承】

世田谷区は平成28年度に、国の歴史文化基本構想と相当するものとして、「世田谷区文化財保存活用基本方針」を定め、文化財の保存と活用を一体として、文化財とそれを取り巻く環境を含めて保護していくこととしています。

「旧山田家住宅」は、昭和初期に新たに開発された住宅としての成城の街並みと国分寺崖線の自然という歴史的な環境を一体として、地域の歴史・文化を次世代に伝えていきます。

#### 成城・旧山田家住宅

所在地：世田谷区成城4丁目20-25

開園時間：午前9時30分から午後4時30分まで

休園日：毎週月曜日

(ただし、月曜日が祝日の場合は次の平日)

年末年始(12月29日から1月3日まで)

アクセス：小田急小田原線「成城学園前」駅西口より徒歩7分

問合せ：世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域学校連携課  
文化財係 ☎03-5432-2726



復刻版 TOYODA BEER



旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一室(通称:ハウス)

# 地域資源としての文化財— 『TOYODA BEER』と『桑ハウス』

## 地中に眠っていた、新時代への挑戦の軌跡



ビール貯蔵所跡

TOYODA BEERは、明治維新を経て日本が近代国家としての歩みを始めた明治19年(1886)から明治27年(1894)頃まで、日野市豊田にある旧名主家(山口家)で時の当主、平太夫によって興された近代産業の一つで、多摩地域でも最古のビール醸造であったとされています。

これまで文書資料などでしかその存在が知られていませんでしたが、平成25年に敷地内で行われた発掘調査で半地下構造を持つビール貯蔵所の跡やその周辺から大量の瓶の破片が、また、同時に行われた蔵の調査からは当時のビールラベル(復刻版は別ラベルを使用)やコルクなどが次々と見つかりました。



当時のラベル

## 緑深き公園の片隅に佇む、近代化の夢の跡

桑ハウスは、正式名称を旧農林省蚕糸試験場日野桑園



漆喰装飾

第一蚕室といます。これは、明治44(1911)年に原蚕種製造所(後の蚕糸試験場)が杉並の高円寺を本部として開設されたことを受け、試験場に桑を供給するために設けられた桑園です。



第一蚕室

後の時代になると供給のみならず、養蚕に関する様々な研究機能(栽培システム、桑や蚕の品種改良等)が付加されていったもので、日野桑園第一蚕室もそうした流れの中で昭和7年(1932)に建設されました。

第一蚕室は、当時の模範的な蚕室の形式を取り入れつつ、1階は当時としては珍しい鉄筋コンクリート造とし、内部の装飾や窓等に洋風のスタイルがみられるモダンな蚕室でした。また、木造の2階の屋根裏には洋風トラス構造の梁組みも残されています。



洋風トラス構造

## 「モノ」から「資源」へ

市内に残されていたこの二つの近代化遺産について、日野市では、新しい時代に果敢に挑戦した先人たちに敬意を表しつつ、現代に生きる自分たちにも何かできないかと、官・民・学が連携したプロジェクトがそれぞれ始動しています。

TOYODA BEERは、実行委員会を立ち上げ、歴史的エピソードを活かした地域のPR活動として、復刻ビールの開発・販売を平成27年から開始し、今年度からは日野産大麦100%のビール造りにも挑戦しています。



日野産大麦

また、桑ハウスは、平成29年6月28日に市内初の「国登録有形文化財」として登録され、現在、様々な専門家や市民の方々と一緒に保存活用に向けた対応が進められています。



小学校での養蚕の授業

【旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室(通称:桑ハウス)】  
 アクセス:多摩都市モノレール「甲州街道駅」から徒歩12分  
 JR中央線「日野駅」から徒歩15分  
 問合せ:日野市教育委員会生涯学習課文化財係  
 ☎042-514-8792(直通) FAX042-583-9684  
 桑ハウス公開予定:平成30年11月10日から11月11日まで

# 旧前田家本邸洋館のリニューアルオープンに向けて

## 旧前田家本邸の歴史

目黒区の北端、駒場台地上に位置する旧前田家本邸は、旧加賀藩主前田家16代当主前田利為侯爵の邸宅として、昭和3年(1928)から昭和5年にかけて建設されたもので、地上3階地下1階建ての洋館と2階建て純日本風の和館が現在も同地に残されています。

昭和17年、太平洋戦争に出征していた利為侯はボルネオで戦没。第二次世界大戦後の占領下で、邸宅は連合国軍総司令部に接収されました。接収解除後、邸宅と敷地は国と東京都が分割所有することとなり、昭和42年に東京都立駒場公園として開園。昭和50年からは公園と和館は目黒区が、洋館は東京都が管理しています。開園当初、洋館は東京都近代文学博物館として整備されましたが、平成14年(2002)に閉館し、以後は公園内の文化財建造物として一般公開されてきました。



旧前田家本邸 洋館

## 旧前田家本邸洋館の保存と復原

旧前田家本邸は激動の歴史を経ながらも、昭和初期の華族の邸宅を広い敷地とともにほぼそのままの形でとどめている歴史的価値が認められ、平成25年に国の重要文化財(建



**屋上/タイルの補修**  
防水層の修理のため、いったんタイルを剥がしました。1枚ずつ丁寧に剥がし、出来る限り元のタイルを使いました。色むらがあるので、全体のバランスを見ながら配置します。



**大食堂/金唐紙の補修**  
建築当初に貼られた金唐紙がそのまま使われています。剥がれたところは、注射器で少しずつ糊を注入し、慎重に修理を進めます。

造物)に指定されました。それをうけて洋館では、平成28年7月からおよそ2か年の計画で、創建以来90年を経た建物の再生と耐震補強、円滑な公開を行うための整備を実施しています。

幸いにも建物自体は大規模な改修はされず、ほぼ当初の姿を残していましたが、内装は連合国軍接収期に変更が加えられ、カーテンや絨毯、調度品なども取り払われたために創建当初の華やかさは失われていました。

今回の保存整備工事では、建物の修理と設備の更新、後世に改変された箇所や欠失部分の復旧を行うとともに、古写真や残された内装材をもとに前田家が暮らしていた当時の住環境を再現します。

## 一般公開に向けて

保存整備工事の終了後、旧前田家本邸洋館は平成30年10月27日(土)から開催される東京文化財ウィークにあわせて一般公開を再開します。

侯爵前田家の人々が暮らしていた昭和初期の内装を再現した部屋や、邸宅の歴史や特徴を紹介する展示室、図書室などを新たに設け、ボランティアによるガイドツアーを実施し、旧前田家本邸の文化財建造物としての魅力を発信していきます。



**夫人室/内装の整備**  
家族の居間でもあった夫人室は、とても美しい部屋であったと言えます。建築当初の絨毯を修理して敷き込みました。

## 旧前田家本邸洋館

**所在地:** 東京都目黒区駒場4丁目3-55

**アクセス:** ・京王井の頭線「駒場東大前」駅西口徒歩12分・小田急線「東北沢」駅又は「代々木上原」駅徒歩13分・東京メトロ千代田線「代々木上原」駅徒歩13分・東急バス渋谷駅より幡ヶ谷行き「代々木上原」徒歩3分  
**休館日:** 月曜日・火曜日(ただし祝日の場合は開館)、年末年始(12月29日から1月3日まで)

**公開時間:** 午前9時から午後4時30分まで

**見学料:** 無料

※公開日でも貸出しを行っている部屋については、御覧いただけない場合があります。

**問合せ:** 旧前田家本邸洋館 ☎03-3466-5150



## 編集後記

今号では、旧浜離宮庭園の御茶屋や旧前田家本邸洋館の修復について取り上げました。この旧浜離宮庭園や旧前田家本邸も参加する「東京文化財ウィーク」を、本年度も開催します。「東京文化財ウィーク」は、文化財の所有者・管理者をはじめとする多くの方々の御理解と御協力によって1998年から継続してきました。ぜひ現地に足を運び、マナーを守りながら文化財めぐりをお楽しみください。